

ふたばこども園  
園便り 2月号

# ふたばっ子

令和3年2月5日発行 文責 園長 納富博文



紅梅

※園日より「ふたばっ子」はホームページでもご覧いただけます。

## 2020年度もあと2ヶ月となりました

大寒が過ぎ、寒さがいくらか和らいできましたようです。これから「三寒四温」の日を繰り返し、春の訪れを迎えることとなります。

コロナ禍で始まった今年度も、残すところ二月（ふたつき）となりました。ふたばこども園は、おかげさまで子どもたちや保護者様、そして先生たちも元気で過ごすことができていると安堵しています。

これからも、子どもたちが元気で、楽しく過ごすために、「コロナを園に持ち込まない」や「コロナうつらない・うつさない」などの強い意志を持って、コロナ禍を乗り切っていきたいところです。

保護者、ご家族の皆様にも、何かとご理解とご協力をお願いすることと思います。子どもたちの命と安全を守るためによりしくお願いします。

## コロナ感染症の流行拡大が早く治まりますように

コロナ感染症の流行が拡大する中、医療現場の危機や崩壊の事態を迎え、再び11都府県で「緊急事態宣言」が発令されました。夏場に陽性者数が減ってきたことやコロナによる重症者等の数が少ない状況等に、多くの人々に気のゆるみが出た結果だと思えます。また、経済を持ちこたえさせるための施策等も一因だと思えます。

佐賀県では今でも連日2桁の陽性者が出ています。また、保育施設や高校、介護施設や一般企業等で次々とクラスターが発生しました。今や年齢に関係なく、小さい子どもからお年寄りまで、誰でもが陽性になるリスクを抱えています。感染力が強いウイルスのようであり、変異もするようで、本当に怖いと思えます。

こうした状況が1日も早く終息して欲しいところです。ワクチンの接種も始まるようですが、子どもたちへの供給にはもうしばらくかかりそうです。安全性も確実ではありません。また、インフルエンザの特効薬（「タミフル」や「イナミル」等）のような、コロナの特効薬の開発には、まだまだ時間がかかりそうです。

とすれば、今を乗り切るためには、コロナ流行の当初に言われていた、「3密」を避ける、手指消毒の励行、マスクの着用、不要不急の外出をしない等の基本的な対応をしっかりと行い、ウイルスを封じ込めることしかないと思えます。園では毎週の職員連絡会で、コロナウイルス感染症の状況を共有し、前述の基本的な対応を一人一人がしっかりと行うこと、そして「うつらない・うつさない」という強い意識を持って行動することを確認しあっています。保護者の皆様もよりしくお願いします。

## コロナでの誹謗中傷や差別的発言は絶対あってはなりません

佐賀市内の保育所でクラスターが発生しました。たくさんの職員や子どもたち、保護者の方に陽性者が出てしまいました。2週間の休園措置をとられ、園舎の消毒や殺菌など、さまざまな対応をされていました。本当に大変だっただろうと推察できます。

園長先生は「2週間保育ができなくて、子どもたちや保護者に多大な迷惑をかけてしまったことが辛かった。でも、何よりも辛く、悲しかったのは、心ない誹謗中傷や差別的な苦情だった。」と言われていたそうです。

誹謗中傷（ひぼうちゅうしょう）とは、事実ではないことを根拠にした悪口を言いふらして、他人を傷つける行為のことです。

新型コロナウイルス感染症は、今や誰でも、どこでも罹患する状況です。かからないように注意していても、かかってしまうことも多いようです。誰がよい、悪いではなく、悪いのはコロナウイルスです。

一番辛い思いをしているのは罹患した人やその家族、それに関わる人たちです。患者さんを自分の命をかけて治療している医者や医療スタッフの方々です。また、乳幼児施設の保育士や職員たちも「3密を避けることができない」「マスク着用が難しい」など多くのリスクを抱えながら、子どもたちを命がけで預かっています。

なのに、どうして、そんな人たちを平気で誹謗中傷したり、差別的な発言をしたりできるのか不思議です。もし自分がかかってしまったら、他人から誹謗中傷や差別的発言をされても平気なのでしょうか？

そこには、「人間性（力）」が問われてきますね。人を非難したり批判したりすることは簡単です。でも、その行為の裏には責任をしっかりと持つべきだと思います。他人への思いやりや優しい気持ちを持っている人、心の痛みが分かる人はそんな行為はしないだろうと思います。ふたばこども園の保護者、ご家族の方には絶対にそんな行為をする人はいないと信じています。コロナでなくても、誹謗中傷や差別的発言・行動はあってはならないことです。